

## 第2学年国語科学習指導案

単元名 お話の世界に入って音読劇をしよう

教材名 「お手紙」アーノルド＝ローベル作（東京書籍 小学校2年上，光村図書 小学校2年下）

### 1 単元について

#### (1) 児童観

児童は、これまで、「ふきのとう」と「スイミー」の2つの文学的な文章の学習を行っている。その中で、話を読んで感想を書く活動や登場人物の気持ちを考えながら役に分かれて音読をする活動などを経験している。音読に関しては、抑揚をつけたり表情を豊かにしたりして登場人物になりきって堂々と読んでいる児童もいる反面、よく意味を考えずに読んでいる児童や動きの工夫の仕方が分からないままに読んでいる児童もいる。

#### (2) 教材観

本教材は、アーノルド＝ローベル作の「ふたりはなかよし」シリーズの中の1つの話であり、児童にとって身近な生き物であるかえるやかたつむりなどを登場人物にした物語である。主な登場人物であるがまがえるくんとかえるくんの二人が、お手紙を通してお互いが相手のことを大切に思っていることを確かめ合うという心温まる話である。

登場人物が少なく、会話文も多いので人物同士の関係が把握しやすい。また、話の中で、場所が「がまがえるくんの家」→「かえるくんの家」→「がまがえるくんの家」と移っているのは、場面の変化を把握しやすい。さらに、文章と場面ごとの挿絵を照らし合わせて読み進めることで、登場人物の心情の変化もより分かりやすく読み取ることができる。よって、場面の様子や登場人物の会話や行動を中心に、想像を広げながら読む力を身に付けるために適した教材と考える。

#### (3) 指導観

本単元では、物語を演じる（「C読むこと」(2)②イ）活動を言語活動として設定する。

具体的には、単元の終末にこの教材による音読劇を行うという目的をもたせる。登場人物になりきって音読するという事は、2年生の児童にとっては楽しく意欲の喚起付けを図ることのできる活動であり、場面の様子について、登場人物の会話や行動を基に想像を広げながら読ませることに適した言語活動である。

実際の授業の中では、少人数での「役割読みをする」「表情に気を付けながら読む」などの物語を演じる活動を段階を追って毎時間取り入れていく。その中で、繰り返し出てきている言葉や文章の比較をさせたり、登場人物の会話や行動に着目させたりして場面の様子や登場人物の心情を読み取らせたい。さらに、挿絵からも場面の様子が想像できることにも気付かせた上で、音読に生かすようにさせる。このような読み取りが、単元終末に位置付けている音読劇へとつながるようにしていきたい。また、音読劇発表会に向けての練習や発表本番では、ワークシートで考えた気持ちを生かして読むことを指導していく。

毎時間の活動のめあては、単元計画表を使って確認し、音読劇につながる読み取りの時間になるよう意識させながら学習を進めていく。また、文学的な文章を読むために必要な身に付けるべき力にも気付かせたい。

「お手紙」は東京書籍と光村図書の2つの教科書に載っている教材である。東京書籍では、上の教科書で取り上げられており、読書活動へと広げる単元として位置付けられている。光村図書では、下の教科書で取り上げられており、物語を演じる活動へとつなげる単元として位置付けられている。ここでは、光村図書の教科書を参考に指導案を作成した。

## 2 単元の目標

物語を演じることを通して、場面の様子を登場人物の行動や会話から想像を広げて読み取ることができる。

## 3 単元の評価規準

| ア 国語への<br>関心・意欲・態度                                      | イ 読む能力  | ウ 言語についての<br>知識・理解・技能                                   |
|---|---|---|
| 1 音読劇をするという目的をもち、進んで読んだり考えたりしている。<br>2 意欲的に音読劇に取り組んでいる。 | 1 読んだことを音読劇に生かしている。【C読むこと(1)ア】<br>2 登場人物の行動や会話を中心に、場面の様子について想像を広げながら読んでいる。【C読むこと(1)ウ】 | 1 文の中における主語と述語との関係に注意している。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(カ)】 |

## 4 指導と評価の計画（全11時間）

| 次 | 時間 | 主な学習活動  | 指導上の留意点   | 評価とその方法  |
|---|----|---|---|--|
| 一 | 1  | ○ 手紙をもらった経験などを出し合い、話の大体の流れを把握する。<br><br>○ このお話の音読劇を知り、学習計画を考え、今後の学習の見通しをもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>題名の「手紙」という言葉についてのイメージを自由に出させる。</li> <li>実際に手紙を見せ、経験等が出やすい雰囲気を作る。</li> <li>音読劇をするという目的を示し、それに向かって計画を立てることを把握させる。</li> </ul> | アー1 音読劇を成功させるために、単元計画について進んで話し合おうとしている。〔発言・学習計画表〕  |
| 二 | 2  | ○ 全文を読み、出来事を整理し、場面を4つに分ける。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>時間や場所の移り変わりや人物の行動に注目させ、場面を4つに分けさせる。</li> </ul>   | イー2 時間や場所の変化に気づき、場面を分けている。〔ワークシート〕   |
|   | 3  | ○ 手紙をもらえず悲しんでいるがまくんの気持ちを読み取る。【1の場面】   | <ul style="list-style-type: none"> <li>役割読みを通して、人物の会話や行動に着目させてそれぞれの立場や気持ちを理解させる。</li> <li>読み取ったことを基に想像した気持ちをワークシートに書かせる。</li> </ul>                               | イー2 がまくんのさびしい気持ちを読み取っている。〔ワークシート・発言・音読〕<br>ウー1 誰の言った会話文かを理解し、場面の様子を想像しながら読んでいる。〔ワークシート・音読〕 |
|   | 4  | ○ がまくんを思うかえるくんの気持ちを読み取る。【2の場面】  | <ul style="list-style-type: none"> <li>動作化を取り入れることでかえるくんの言動から気持ちを考えさせる。</li> </ul>  | イー2 かえるくんのがまくんを思う気持ちを読み取っている。〔ワークシート・発言・音読〕<br>ウー1 主語のない文章があることに気付かせ、場面の様子を想像しながら読んで       |

|   |           |  |   |
|---|-----------|--|---|
|   |           |  | いる。〔発言・音読・観察〕   |
|   | 5         | ○ 2人の言動を比較し、それぞれの気持ちを読み取る。【3の場面前半】   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繰り返し出てくる文章や挿絵の表情、会話文に着目し、動作化を取り入れて読ませることで、気持ちを考えさせる。</li> </ul> イー2 2人の気持ちの違いを読み取っている。<br>〔ワークシート・発言・音読〕<br>ウー1 誰の言った会話文かを理解し、場面の様子を想像しながら読んでいる。<br>〔ワークシート・音読〕                              |
|   | 6<br>(本時) | ○ がまくんの気持ちの変化と2人の心の通い合いを読み取る。【3の場面後半】  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挿絵の表情、会話文に着目し、動作化を取り入れて読ませることで、気持ちを考えさせる。</li> <li>・ 動作化を通して、1の場面との違いに気付かせる。</li> </ul> イー2 2人の心が通い合っていく様子を読み取っている。<br>〔ワークシート・発言・音読〕<br>ウー1 誰の言った会話文かを理解し、場面の様子を想像しながら飛んでいる。<br>〔ワークシート・音読〕 |
|   | 7         | ○ 2人の心の通い合いを読み取る。【4の場面】  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挿絵を比較し、2人の表情の変化に気付かせる。</li> </ul> イー2 幸せな2人の様子を読み取っている。<br>〔ワークシート・発言・音読〕  |
| 三 | 8         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループに分かれて、音読劇発表会に向けての話し合いをし、自分の担当する場面の台本を作る。</li> <li>○ 音読劇の練習をする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文を印刷したプリントを渡し、音読劇のための台本作りをさせる。</li> <li>・ さっと見て分かるように、短い言葉や顔マークなどを用いて注釈を書かせる。</li> </ul> アー2 音読劇に向けて進んで話し合おうとしている。<br>〔発言・観察〕<br>イー1 読み取ったことを基に音読劇の練習をしている。<br>〔音読・観察〕                      |
|   | 9<br>10   | ○ クラス全体で「なりきり音読劇発表会」を開く。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 台本に記入していることを生かしながら音読させる。</li> <li>・ 自分の音読と比較しながら発表を聞かせる。</li> </ul> アー2 進んで音読劇に取り組んだり友達の音読の良いところを探しながら聞こうとしたりしている。<br>〔音読発表・発言・観察〕   |
| 四 | 11        | ○ 「お手紙」の登場人物に「ぼかぼかお手紙」を書く。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「お手紙」に出てきた2人の人物について思い出させ、自分が書きたい人物を決めさせる。</li> <li>・ 相手の名前、伝えたいこと、自分の名前を入れて書かせる。</li> </ul> ウー1 主語や述語、「○○さんへ」という助詞を正しく使っている。<br>〔ワークシート〕   |

## 5 本時の指導（6／11）

### (1) 目標

- お手紙によって心が通い合うがまくんとかえるくんの様子を読み取ることができる。（イー2）
- 主語のない文章があることに気づき、場面の様子を想像しながら読むことができる。（ウー1）

(2) 展開

| 学習活動   | 指導上の留意点及び評価   |
|--|---|
| 1 前時の学習を振り返り，本時のめあてを知る。  | <p>○ 学習計画の拡大掲示物を用い，前時までの読み取りで分かったことを振り返らせ，本時にも使うことを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・気持ちは，会話や行動，挿絵から想像する。</li><li>・繰り返し出てきた文章には，変化を付けて音読する。</li></ul> <p>やくわり読みをしながら，がまくんとかえるくんの気持ちを考えよう。</p>  |
| 2 3の場面後半を音読する。   | <p>○ 役割読みをさせることで，誰の言った言葉かを確認させる。</p> <p>○ 教科書の会話文に○印をつけ，把握させる。<br/>(がまくん・・・赤，かえるくん・・・緑)</p> <p><b>【評価】</b><br/>誰の言った会話文かを理解しながら読んでいる。<br/>(ウー1)</p>   |
| 3 人物の気持ちとそれが分かる文章をワークシートに書き込む。<br>(1) 一人で考える。<br><br>(2) 少人数で交流する。<br><br>(3) 全体で交流する。 | <p>○ 読み取った気持ちを登場人物の言葉で書かせる。会話文に続けてつぶやきを書き加えさせたりする。</p> <p>○ 作業が進まない児童には，指定した会話文を書き抜かせたり，他の児童の記入例を参考にさせたりしながら考えさせる。</p> <p>○ 隣同士やグループで交流させることで多様な考えに触れさせたり，書けなかったところに記入させたりする。</p> <p>○ 拡大した教材文を提示し，児童の発言を色分けして書きこんでいく。<br/>(がまくん・・・赤，かえるくん・・・緑)</p> <p>○ 「きみが。」，「ああ。」の短いことばに込められているがまくんの気持ちを考えさせる。</p> <p>○ 挿絵や文章から1の場面との場面の様子を比べさせる。</p> |
| 4 気持ちをこめて，三の場面の後半の役割読みをする。   | <p>○ がまくん，かえるくん，かたつむりくん，地の文の4つに分かれ，音読させる。</p> <p><b>【評価】</b><br/>二人の心が通い合っていく様子を読み取っている。<br/>(アー2)</p> <p>○ 動作を加えたり，抑揚をつけたりしながら上手に読んでいる児童を紹介する。</p>   |

5 本時の振り返りをする。

- ワークシートで振り返りをさせる。
- 会話や行動，挿絵から気持ちが想像できることに気付かせる。
- 短い会話文でも気持ちをこめて読み方を工夫しなければならぬことに気付かせる。